

2020年7月6日

第8回 中日ドラゴンズカップ 2020 中学硬式野球大会 特別規定

本大会は、少年硬式野球団体が他団体と交流することにより、少年硬式野球の発展と参加する少年たちの心身の育成発達に寄与することを目的とする。出場チームは、この目的に賛同する団体がその団体の代表として団体の承認をもって出場することができる。

本大会の運営においては、相互の理解のもと主催者の意見を尊重する。

本大会は、該当年度の公認野球規則および以下の大会特別規定を適用する。

なお、新型コロナウイルス感染防止のため、新型コロナウイルス感染防止対策を遵守ください。

【大会運営に関する特別規定】

1. 本大会に参加できる選手は、所属団体の規定を満たし 2020年6月末日の時点で各所属団体に登録を完了したチーム（監督、コーチ、選手）とする。
2. チームは単独チームとし 25名以内の選手で編成する。なお、ベンチに入ることができる人員は、監督1名、コーチ2名、記録員1名、チーム責任者1名、選手25名までとする。
3. 登録締切日以降、選手の変更は原則として認めない。ただし、登録された選手がケガや病気等でやむを得ず出場できなくなった場合は、当該チームの初戦試合開始 60分前までに登録選手変更届を大会本部に提出し承認されれば選手の変更ができる。それ以後の大会中の変更は不可とする。
4. 登録された監督、コーチ、選手は、同じユニホームを着用し（記録員およびチーム責任者は除く）、背番号は所属の団体の規定（コーチは同じ背番号も可）の通りとする。
5. ベンチはトーナメント表の組み合わせ番号の小さいチームを一塁側とする。
6. 各チームの監督および主将は、試合開始 60分前に当該球場に到着し大会本部で所定の審査を受けてメンバー表を受け取る。
7. 試合開始までにチームがグラウンド内に現れないときは、大会本部は没収試合を宣言することができる。ただし、やむを得ない理由と認めた場合は試合の入れ替えを行う場合もある。

8. 各チームの監督および主将は、前の試合の4回終了後に、所定のメンバー表を審判部に提出し当該審判員の立ち合いのもと先攻後攻をジャンケンで決定する。
9. グラウンド内での試合前の練習は、大会本部の指示のもとに速やかに行う。なお、各球場のグラウンドルール(外野芝上でのスパイク禁止等)がある場合は、それに従う。
10. 試合前のシートノックは5分間とする。時間は厳守し登録選手のみで行う。
11. 次の試合のため試合中のグラウンド内(ブルペン)での投球練習は4回以降とする。ただし、各チーム1組のバッテリーのみとする。なお、試合中の打球には十分に注意し安全対策のため打球監視員を必ず1名を配置する。
12. 試合前、内野ファウルグラウンドでの練習(ベンチ前でのノック等)は、相手チームに支障がない程度は認める。
13. 試合中、攻撃側および守備側の選手は、みだりにグラウンドでの練習を禁止する。
14. 当該チームは3名のバットボーイ、ボールボーイ(1名は外野ファウルゾーン)を配置しヘルメット・上半身はチームユニホーム以外を着用する。なお、熱中症対策には十分注意し常時水分を保持(水分を補給する等)し対応する。
15. 一回戦での審判員は球場毎に各リーグが担当する。なお、ナゴヤ球場およびナゴヤドームでの試合は各リーグの各審判員で構成する。この場合の主審は試合を行うチームに所属しないリーグの審判員とするがその限りではない。
16. ナゴヤ球場およびナゴヤドーム以外での試合終了後のグラウンド整備は両チームの選手が共同で協力し実施する。
17. 大会中の負傷または疾病に対して応急処置は施すが、それ以上の責任は負わない。
18. 各チームは必ず成人である責任者が引率し選手の行動や観客席での応援等に責任を負う。
19. 各自で出したゴミは、球場(スタンドや周辺等)に捨てず必ず持ち帰る。また、スタンドで応援する選手および保護者にも徹底する。
20. 出場チームは、主催者が許諾した本大会に関わる新聞、テレビ、雑誌、インターネット上の情報配信などの放送や出版物について、出場チームの名称や監督、コーチ、代表、選手の氏名、肖像など予め提供された個人情報および取材によって得た情報を、それぞれが記事、放送、出版物、配信などに使用することを承知する。

【競技に関する特別規則】

試合方法

1. 試合の勝敗は以下で定める。
 - ① 試合は 7 回制で行い 4 回終了をもって正式試合とする。
 - ② 試合成立後の降雨やその他の理由により試合続行が不可能の場合は、両チームが完了した均等回の総得点で勝敗を決する。
 - ③ 前項で同点の場合は、均等回の終了回に出場していた選手（9 名）での抽選とする。抽選は大会本部で定めた方法とする。
2. 試合成立前に降雨やその他の理由により試合続行が不可能になった場合、サスペンデッドゲームとし大会本部が指定した日時、場所で中断した状況で試合を再開する。
3. **本大会の準々決勝（4 試合）は 4 回終了後以降、試合開始から 2 時間を超えていた場合は新しいイニングに入らない。また、同点の場合は抽選とする。**
4. **本大会の準決勝（2 試合）は、7 回を終了または試合開始から 2 時間を超えて（決勝戦は 2 時間 20 分を超えて）同点の場合、新しいイニングに入らず以下で定めるタイブレーク方式で勝敗を決する。2 イニングで決着がつかない場合は抽選とする。**
 - ① 時間制限において次の場合による中断は試合時間としない。
 - (a) ケガ等により治療に要する時間
 - (b) 降雨、強風、雷等により一時的に試合続行が不可能な場合
 - (c) その他不測の事態により審判員が必要と認めた場合
 - ② タイブレーク方式
 - (a) 一死満塁で打者は前回正規に打撃を完了した次の打順の打者とする。
 - (b) 走者は前項の打者の前の打順の選手が一塁走者、その前の打順の選手が二塁走者、そして二塁走者の前の打順の選手が三塁走者とする。
 - (c) 代打および代走は認める。
 - (d) 投手成績
 - ・規定により出塁した 3 走者による失点は投手の自責点とはしない。
 - ・完全試合は認めない。ただし、無安打無得点試合は認める。
 - (e) 打撃成績
 - ・規定により出塁した 3 走者の出塁は記録しない。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁、打点、併殺打等は全て記録する。

5. 得点差によるコールドゲームは 5 回以降 7 点差になったときに成立する（決勝戦は除く）
6. 試合前および試合中、不測の事態が起こった場合は、審判員および大会本部の決定に一任する。

投手

1. 投球回数は、投手の肘・肩の障害防止を考慮して 1 日 7 回までとする（タイブレークも含む）。
 - ① 端数投球回数（0/3 回、1/3 回、2/3 回）は、試合毎に切り上げて投球回数 1 回（タイブレークも含む）とする。
 - ② サスペンデッドゲームとなった場合、前試合の投球回数はカウントせず続行試合日での投球回数とする。
2. 投手交代について、同一イニングで、投手が投手交代しある守備位置につき、さらに別の守備位置についた後、再び投手に戻れる。ただし、その後、他の守備位置に移ることはできない。
3. 投手の準備投球（投球練習）は、初回や投手が交代した場合 7 球、イニング間は 3 球までとする。なお、アクシデント等で急遽、投手が交代した場合、審判の判断で必要と思われる準備投球数とする。

攻撃

1. 臨時代走について
 - ① 攻撃側の選手に不慮の事故が起き、一時、走者を代えれば試合中断が短くなると審判員が判断した場合臨時代走を認める。
 - ② 臨時代走者は、投手および捕手を除いた選手のうち打撃を完了した直後の選手とする。
 - ③ 臨時代走者は、その代走者がアウトになるか、得点するか、イニングが終了するまで継続する。
2. 故意四球の申告について
 - ① 守備側チームの監督が、主審に対してタイムを要求し『故意四球とする意思を示した』場合は、ただちに、審判員は「タイム」を宣告し試合を停止させ打者に一塁を与えられる。

- ② 投手は敬遠するため実際に投球することができる。
 - ③ 投球の途中で故意四球の申告することができる。
 - ④ 投手交代直後の打者に故意四球を申告した場合、投手を交代することができる。
3. 攻撃側の次打者は、次打者席（ネクストバッターズサークル）で待機し打球に十分注意する。このため、投球中のスイングは禁止する。

指示伝達

1. 監督およびコーチの指示伝達（控え選手も含む）回数は以下に定める。
- ① 攻撃時 2 回、守備時 2 回とする。
 - ② 延長またはタイブレークに入った場合は、攻撃時 1 回、守備時 1 回とする。
 - ③ 内外野手（捕手含む）の 3 人以上が投手のところに行った時も 1 回とする。
 - ④ 選手のケガや選手交代などは回数にカウントしない。
 - ⑤ 守備時での指示伝達が 3 回目には自動的に投手は交代となり、他の守備位置につくことができる。ただし、同一イニングで再び投手として登板することはできない。

熱中症への注意

1. 本大会に出場される各チームおよびスタンドで応援される保護者、運営をサポートいただく関係者は、熱中症の対策に万全を期す。
- ① 試合中の **4 回**ウラ終了後、5 分間 試合を中断する。この間、選手はベンチ、審判員は審判控室で給水、休憩する。よってこの 5 分間は試合時間に含まない。なお、ナゴヤドームは除く場合がある。
 - ② 攻撃時間が長時間になった場合など、審判員等の判断で給水・休憩のための時間を取ることができる。
 - ③ 各チームの代表者はベンチ内にスポーツドリンクや氷嚢など用意し選手の体調管理に十分注意する。
 - ④ 4 回ウラ終了後のグラウンド整備は両チームの保護者をお願いする場合がある。
 - ⑤ 攻守交代の際、打者および走者はベンチまで戻ってベンチ内で給水する。
 - ⑥ 審判員は選手が十分に水分補給できるまでグラウンドに出ることを促さない。
 - ⑦ ナゴヤ球場の観客席（正面スタンドは除く）での簡易テントの設置を認める。ただし、強風対策など怠らないよう各自で十分注意する。